

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文獻	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
345	2007/07/27	70345	アボット ジャパン	パリビズマブ(遺伝子組換え)	濃縮リビッド	羊毛	オーストラリア ア、ニュー ジーランド	製造工程	有	無	無	クロストリジウ ム感染	共同通信 2007年2 月22日	070340に同じ
346	2007/07/27	70346	日本赤十 字社	白血球除去人赤血球浮遊液	白血球除去 人赤血球浮 遊液	人血液	日本	有効成分	有	有	有	細菌感染	ABC Newsletter 2007年4月13日 21 ページ	2004年度から2006年度にかけて米国食品医薬品局 (FDA)に報告された輸血関連副作用による死亡症例数 である。3年間の合計は219例で、内訳はTRALI86例 (39.3%)、その他の副作用(ABO不適合以外の溶血反 応、輸血関連心過負荷、細菌感染、アナフィラキシーな ど)67例(30.6%)、細菌感染20例(9.1%)、ABO不適合に よる溶血反応15例(6.8%)、輸血が原因である可能性が 否定できない症例31例(14.2%)となっている。
												細菌感染	Clin Infect Dis 2007; 44: 1408- 1414	2005年3月、米国ネブラスカ州の病院で複数の病室にお いて、無針静注カテーテルコネクタバルブが導入された 時期に血流感染の急激な増加が見られた。一次血流感 染について調査を行ったところ、一次血流感染と無針静 注カテーテルコネクタバルブの使用との間に有意な関 連性が認められた。細菌培養を行った37個のバルブのう ち24.3%から微生物が検出され、主にコアグラーゼ陰性ブ ドウ球菌であった。無針コネクタバルブの評価には市場 導入前に感染リスクの査定を含めるべきである。
												細菌感染	American Society for Microbiology 107th Annual Meeting: L-004 2007年5月21-25 日	日本の三次医療施設である自治医科大学病院(病床数 1082床)において、2006年4月1日～8月31日に、患者28名 の血液培養からBacillus cereusが検出された。リネン類 の汚染と末梢静脈ラインの不適切な取り扱いが原因であ ると考えられた。一時的にリネン類のオートクレープ処理 を行い、洗濯機を洗浄し、末梢静脈ライン管理について職 員の教育を行ったことで、B. cereus陽性血液培養はその 後検出されなかった。
												マラリア	ProMED- mail20070501.1414	ジャマイカ保健省によると、2007年4月の1ヶ月間に新規 のマラリア症例11例が報告された。内2例は、メスのハマ ダラガが媒介する熱帯熱マラリア原虫によるものであっ た。また、2006年12月に最初の症例が報告されて以降、 輸入感染症例が7例あった。2007年4月1～21日の間に実 施された884検体の検査の結果、血液後体陽性率は0.7 ～1.8%で減少を続けている。最近、Anopheles albimanus 蚊がマラリア原虫殺虫剤に耐性を示し始めたことが確認さ れたため、感染拡大を防ぐために代わりの殺虫剤を探し ている。